

■■日傘マスターになろう■■

コロナ禍以降のコミケットで大きく変わった点の1つがこの日傘／傘の使用に関するルールだろう。かつては長い間、危険物として30センチ以上のいわゆる『長物』のコミケット会場への持ち込みが禁じられていた。その後多数の参加者が会場に溢れ、入場待機列も圧縮しなければならなかった期間には、1人の参加者がその恩恵を享受する一方で、周囲全方向の他の参加者に危険をもたらすことが危惧され、雨天でも使用を控えるよう告知されていた。

現在はコロナ禍を経て、感染予防措置も兼ねて待機列の参加者同士の間隔が広めに取られるようになったこと、夏の酷暑化が進み、熱中症が大きなリスクとなったことなどからその有効な対策としてむしろ積極的活用が案内されている。

とは言え、使い方を誤れば周囲に迷惑を及ぼしかねないことは変わらない。正しい使い方を心がけて、安全に熱中症予防に努めよう。

——■傘と日傘と雨傘と■——

傘は雨に対して目日射しに対してでも一定の有効性を持つが、反面、持ち主以外の周囲の人に対しては**傘の骨の先端が危険を及ぼす恐れがある**。また強風に対しては脆弱で、雨の際にはかなり大きな傘でないと使用者と荷物の全部を守ることが難しく、激しい雨や横殴りの雨では大きな傘をさしていても下半身は濡れてしまうことが多い。これらの特性を踏まえてコミケットでは、**雨対策と日射し対策を1本でまかなえる晴雨兼用の傘を用意し、同時に傘以外の対策も併せて用意しておくことが必須だ**。

以前よりも待機列の参加者同士の間隔は広いとは言え、ふとしたはずみや不注意で傘を大きく振っただけで、周囲の参加者に簡単に傘の骨の先端が当たったり、傘表面を流れ落ちた雨水が降り注いだりしかねない。特に傘の骨の先端は周囲の参加者の顔面や目の高さであり、大きな事故につながりかねないことから、晴雨を問わず傘を使用している間はできるだけ真上に掲げ、常に自分の周囲全方向の参加者に危険や迷惑を及ぼしていないかを注意し続けなくてはならない。周囲の傘使用者の不注意で何らかの被害を被った場合は参加者同士のトラブルにも発展しかねないのですぐに周囲のスタッフに相談すること。

また、雨傘・日傘を問わず、使用に当たって大切なことは、駅から待機列までの移動時や入場のために待機列が動く際など**スタッフから傘を畳むように指示があったり、周囲に他の参加者が密集している状況では、たとえ他に雨や日射しを防ぐ手段が無かったとしても、速やかに畳まねばならない**、ということだ。

移動時にはどうしても周囲に及ぼす危険度が高くなるため、そこで傘を使い続けるのは迷惑行為となってしまう。あくまで傘は静止した待機中のみ使用できる補強型の雨・日射し対策であり、メインとなる対策はレインウェアや帽子、日除け上着などだということは、参加装備を検討する際に思い出してほしい。



●どんな傘がいい？

上でも触れたように、コミケットに持参する傘は基本折りたたみタイプの晴雨兼用傘が望ましい。大きな傘を待機列で使用するのは周囲の参加者に迷惑になりがちだし、長い傘を持ったまま混み合った会場内を移動するのは自分にとっても、他の参加者やサークルにとっても邪魔かつ危険だからだ。しかしあまりにコンパクトなものは軽さや携帯性には優れる反面、傘として小さく華奢すぎて日傘としてはともかく本降りの雨や少しの風に耐えられないものもある。

参加中に雨に見舞われる可能性は低くても、万一突発的な夕立やゲリラ豪雨が合った場合には短時間に強い雨が降るので雨対策も考慮するなら、多少携帯性や重量に目をつぶってでもある程度しっかりした構造・生地 of 傘を持っていくようにしたい。

また、日傘として見た場合は生地の紫外線遮断率に着目しよう。多くの日傘は紫外線遮断率90%以上を謳っているが、この数値は高いほど頭上の太陽から受ける熱を遮る性能が優れていることを意味しているので遮断率100%の製品を選ぶのが望ましい。

濡れた傘を素早く仕舞うための傘袋も用意しておけば尚完璧だ。

